はじめに

2020年1月に日本国内で新型コロナウイルス感染症第一例目が検知され、それから遅れること1か月、熊本県内での同感染症第一例目が検知されました。それから3年が経ちましたが、その間、収束しては新たな変異株が出現する、いたちごっこのようなウイルスとの戦いの中で、当研究所は県民の皆様の安全・安心を確保するため、職員一丸となり検査研究機関としての役割を果たしてきました。

そのような中、令和5年1月27日、政府は、5月8日に感染症法に基づく現在の「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を決定しました。ようやくウイルスとの長い戦いの出口が見えてきたようにも思われますが、患者を受け入れる医療機関をどうするかや、今は自己負担がない医療費負担をどうするかなど、議論すべき点は多く残されています。以前のような日常を取り戻すのはまだまだ先のようです。

さて、この所報は、日々新型コロナウイルス検査に追われる中で令和3年度に進めてきた調査研究の成果等を取りまとめています。一例を挙げますと、衛生分野では、熊本県におけるカルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)の解析及びLC-MS/MSによる嘔吐毒セレウリドの迅速分析法の開発、環境分野では都市域バックグラウンドデータを用いたPM2.5に対する地域変動寄与の簡易推定、などです。関係者の皆様には、是非とも御高覧いただき、御活用いただくとともに、忌憚のない御意見を頂戴できれば幸いです。

最後に、今後も他機関等とも連携・協力しながら、地域保健、公衆衛生、環境保全に関する科学的・技術的中核として専門的な技術や知識を駆使しつつ、県民の健康及び地域の環境を守るための調査研究に取り組んで参ります。

引き続き、関係各位の御支援及び御協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年2月

熊本県保健環境科学研究所
所長　廣畑　昌章